

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	あひるが丘保育園	施設種別	保育所 (旧体系 :)
評価機関名	社団法人 京都府保育協会		

平成 24 年 11 月 29 日

総 評	<p>あひるが丘保育園は昭和 42 年に宗教法人永正寺が開園し、昭和 56 年に社会福祉法人を設立し以来、44 年間地域と密接な関係を保った園運営をされています。</p> <p>仏教保育の精神である「あらゆるものの生命への慈しみの心を育てる」を基本精神とし、「健康に子どもを育てる」「やさしい気持ちを育てる」「落ち着いてしっかりとよく考えられる子どもを育てる」「お互いに認め合える集団の一人となれる子どもを育てる」ことを目標に、大人達の生活態度や生きる姿が環境であり、子どもたちの育ちに大きく影響する事を自覚し、日々励まれています。</p> <p>一時保育、障害児保育、子育てサポートセンター事業などの事業をされています。特に、未就園の一般利用児に対しても、日常的に在園児と交流があり、園行事に参加できよう配慮されています。</p> <p>園長・主任保育士を中心に、職員が互いを尊重し協力して子どもたち一人ひとりのおもいを大切にゆったりとした保育をされています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> 園長が毎月直筆で園だよりを発行し、保育に対する考えや保護者からの意見・要望について回答され、自身の責任を明確にしています。 子どもが主体的に遊んだり生活したりと、生き活きと楽しんでいる姿がみられます。また、子どもの状態を考えた細やかな配慮があり、保護者とも一丸となって、子どもたちが安心して生活できる環境を作っています。 朝夕にリズム運動を行ったり、本格的な楽器を使っての演奏に取り組んだり、様々な体験ができるよう配慮しています。また、保護者が管理運営を手伝う図書コーナーがあり子どもにも、保護者にも本の貸し出しを行っています。
特に改善が望まれる点(※)	<p>特に改善が望まれる点ではありませんが、経営や業務の効率化と改善について職員会議やミーティングなどでも啓発や周知できるように取り組まれていますので、更なる工夫をされると良いでしょう。</p>

※それぞれ内容を 3 点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-2 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	非該当
	I-2-2 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-2 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	A

[自由記述欄]

・入園のしおりやパンフレットに保育の理念・基本方針・目標が明文化されています。
 ・職員にも年度初めの職員会議などで、利用者などには入園のしおりやパンフレット・ホームページで、自治会にも回覧などで周知を図られています。
 ・保育課程は保育理念・保育目標に基づき、保護者へのアンケートや懇談会での意見や意向を考慮して編成されています。指導計画は保育課程に基づき策定され職員会議において評価見直しが行われています。
 ・保育課程・指導計画が入園のしおり・リーフレット・ホームページ・園だよりなどにわかり易く説明され、職員や利用者等に周知を行っています。
 職員には、職員会議などで、周知状況の確認もされています。
 ・管理者としての役割と責任について、園だよりやホームページなどで明示され、職員に対しても日頃より理解してもらえるよう取り組まれています。
 ・経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みは、財務面だけでなく、労務や人事面についても、職員会議で課題の検討を行うなど改善に努めています。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	A	
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	B	A	
		① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A	A	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A	
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
			② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	A		
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	B	A		
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A		
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A	
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A	
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A	
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A	

[自由記述欄]

- ・事業経営をとりまく環境については、各種専門誌を購読し、各種団体が主催する管理者研修などに参加して情報収集に努めています。
- ・人事管理体制については、年度途中の受け入れを見込んで年度当初より人材を確保されています。また、正規職員、非正規職員をバランスよく配置出来るように計画されています。
- ・園長・主任保育士により、職員の就業状況や意向を把握し改善する仕組みが構築されています。
- ・職員の福利厚生にも積極的に取り組まれており、福利厚生センターなどに加入されています。
- ・職員の資質向上に向けた体制が確立され、職員に研修体系表を配布し、一人ひとりについての教育・研修計画が策定されています。
- ・実習生受け入れの意義や方針が明文化され、職員会議などで職員に説明されています。実習生受け入れに関するマニュアルが整備され、養成校とも覚書を取り交わされ実習生受け入れに対する責任体制も明確であり、実習指導担当保育士に対しても園長が研修をしています。
- ・利用者と地域のかかわりについては、交通安全教室を行ったり、地域の病院などへの慰問、餅つき・夏祭りなどを開催しています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
		① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	A
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A

[自由記述欄]

・利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアルや苦情解決の仕組みが整備され、職員・利用者にもその内容を周知しています。
 ・アンケートや面談を行い意見・要望・苦情などに対応し、その都度、利用者にもフィードバックしています。
 ・今回2回目の第三者評価受診となります。職員は定期的に自己評価を行い、職員会議などで評価内容について検討し、その結果と課題を共有しています。
 ・入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントが行われ、その記録管理についても規程があり、適切に管理されています。
 ・利用者の状況などに関する情報は、各クラスに情報共有ノートがあり、子どもの状況が確認でき職員間でも共有化されています。
 ・入園希望者には、随時施設見学の受付やパンフレットなどを配布し、ホームページ上でも情報を提供しています。
 ・転園・卒園にあたり、その後の相談方法や担当者について説明を行い、あひる会(OB会)の案内を渡し、保育の継続性を保つよう努めています。

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	A
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	A	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

[自由記述欄]

・健康管理に関するマニュアルがあり、情報共有ノートを利用し職員間で情報を共有しています。看護師が子どもの健康管理やケガ・病気に対処できる体制となっています。

・感染症に関するマニュアルがあり、感染症発生時には、掲示板やメールなどで利用者に知らせるなど早期発見・早期対応に努めています。

・アレルギーを持つ子どもに応じた、除去食や代替食を提供されていますので、利用者にもそのことがわかる様にされるとより周知が図れるでしょう。

・心地よく過ごせる環境については、部屋の採光や通風・換気また湿度・室温、園全体の設備に関しても、常に安全点検を実施しています。

・子どもたちが自発的に活動できる環境についても、絵本コーナーや玩具の配置も整備され、保育環境は整っています。また、保育者も子どもの気持ちを尊重し、必要以上に声かけをすることなく保育をしています。

・地域の方々を積極的に園行事など等に招き、地域とのかかわりが取れるように工夫したり、小動物の世話をすることを通し命の大切さを、また、園庭や裏山には四季を感じられる環境があります。

・朝、夕にリズム運動を取り入れたり、本格的な楽器での演奏など、子どもたちが自由にさまざまな体験ができるように配慮しています。園での生活は、異年齢の「きょうだいぐるーぶ」で過ごし、年長児がリーダーとなって年下の子とも遊んだり、世話をし手伝うことで幼い者への思いやりの心が培われるように配慮しています。

・障害児保育についても、クラス懇談会などで理解を求めたり、巡回指導の受診や研修への参加を行い、環境・保育内容などに配慮しています。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]

・保護者とは、日常の会話のみならず、連絡ノートや面談を行い、その記録は個別面談記録・日誌などに記録しています。
 ・子どもの発達・育児などについては、懇談会だけでなく保育参加の機会が毎月設けられています。
 ・虐待マニュアルが整備され、関係機関と連携を図り、早期発見に、職員にはマニュアルに基づく研修を行い理解・啓発に努めています。
 ・虐待と疑われる場合の対応については、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っています。子ども虐待防止オレンジリボン運動にも取り組まれています。
 ・児童票に入園時からの記録が綴られ、幼児小連絡会などに参加し、専門機関とも連携を取っています。
 ・一時保育室があり、家庭的な玩具を用意し保育環境に配慮しています。在園児と区別なく日常的に交流ができ、園行事にも参加できます。また、保護者とのコミュニケーションも十分取られています。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B

[自由記述欄]

・衛生管理マニュアルがあり、それに基づき適切に実施されています。また、衛生管理会議が毎月行われ、全職員に周知されています。
 ・食中毒に関するマニュアルが整備され、3月と6月に見直しがあり、職員研修も行われています。
 ・事故防止対策委員会があり、事故防止策の実施状況などについて検討が行われています。「ヒヤリ・ハット」の記録もあり、子どもたちに対する安全教育も行われています。
 ・事故・災害のマニュアルがあり、看護師による研修も行われています。また、各保育室には、防災頭巾が完備され、避難袋の中に名簿・連絡カードを入れ災害等など備えています。
 ・不審者対応マニュアルが整備され、職員にも研修を行い周知され、見直しも行われていますが、その対策について保護者に周知されるとなると良いでしょう。